

令和元年度 全国学力・学習状況調査の結果について

掛川市教育委員会

1 はじめに

本市立学校における「令和元年度全国学力・学習状況調査」の調査結果の概要をお知らせします。本市の結果等を公表することで、市民総ぐるみで成果や課題を共有し、家庭や地域の理解と協力を得て、掛川市の子どもたちを育てていきたいと考えております。なお、本調査は、子どもたちが身に付けるべき学力の一部を測定したものであり、全ての学力を表したものではありません。市全体の傾向や個々の学習状況を把握する資料の一つとして、今後の授業改善に役立てていきたいと考えています。

2 調査結果の概要

小学校では、全国との比較では、国語は全国の平均正答率を上回りました。算数は示された数字上ではやや下回っています。しかし、市と県についての正答率は小数点以下を「切り捨て」で示されているため、実際は差がないと考えてよいと判断します。県と比較すると、国語と算数共に平均正答率が同じでした。

中学校では、全国との比較では、国語、数学、英語の全てにおいて全国の平均正答率を大幅に上回りました。また、県と比較すると、国語及び数学では県の平均正答率を上回りました。初めて実施された英語は、全国でもトップクラスのできであった県の平均正答率と同じでした。中学校は全ての科目において、高成績でした。

今後は、調査結果分析委員会を開催し、掛川市全体の成果と課題について明らかにし、報告書及び家庭向けリーフレットを公表する予定です。

3 市の平均正答率の結果

【全国・県・市の平均正答率】

小学校	国語	算数	
掛川市	65%	66%	
静岡県	65%	66%	
全国	63.8%	66.6%	
中学校	国語	数学	英語
掛川市	77%	65%	58%
静岡県	75%	62%	58%
全国	72.8%	59.8%	56.0%

*市と県の数値は、小数点以下切り捨てで表示されています。

【全国・県の平均正答率を 100 とした場合の市の平均正答率の指標値】

小学校	国語	算数	
静岡県比較指標値	100	100	
全国比較指標値	101	100	
中学校	国語	数学	英語
静岡県比較指標値	102	104	100
全国比較指標値	105	108	103

4 全国と比較して正答率の高かった主な内容（○）と低かった主な内容（▲）

※全国比

(1) 小学校国語

○漢字を文の中で正しく使う。(かんしん)

○豊職人にインタビューする場面における質問の工夫として、適切なものを選択する。

▲漢字を文の中で正しく使う。(たいしょう・かぎらず)

(2) 小学校算数

○ $350 - 97$ について、引く数の 97 を 100 にした式にして計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く。

○だいたい何分後に乗り物券を買う順番が来るのかを知るために、調べる必要のある事柄を選ぶ。

▲2010 年の市全体の水の使用量が、1980 年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く。

▲洗顔と歯磨きで使う水の量を求めるために、 $6 + 0.5 \times 2$ を計算する。

(3) 中学校国語

○「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを選択する。

○話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを書く。

○広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える。

(4) 中学校数学

○四角形 ABCD がどのような四角形であれば、 $AF = CE$ になるかを説明する。

○読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める。

○説明を読み、 $6n + 9$ を $3(2n + 3)$ に変形する理由を完成する。

○連続する 5 つの奇数の和が、中央の奇数の 5 倍になることの説明を完成する。

○連続する 4 つの奇数の和が、 $4(2n + 4)$ で表されたとき、 $2n + 4$ はどんな数であるかを選ぶ。

(5) 中学校英語

○イギリスと日本の類似点や相違点についてのスピーチを聞いて、話の展開に合わせて示す絵を並び替える。

- ある状況を描写する英文を読んで、その内容を最も適切に表している絵を選択する。
- 与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く。

5 掛川の子どもたちの特長（主なものを抜粋）

項目	小学校			中学校		
	掛川市	全国	比較	掛川市	全国	比較
住んでいる地域の行事によく参加している児童生徒の割合	69.1%	37.2%	31.9% ↑	66.5%	21.0%	45.5% ↑
学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると答えた児童生徒の割合	31.8%	30.3%	1.5% ↑	47.7%	28.3%	19.4% ↑
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると答えた児童生徒の割合	47.4%	42.1%	5.3% ↑	51.0%	34.0%	17.0% ↑
先生が自分のよいところを認めてくれると答えた児童生徒の割合	50.5%	43.1%	7.4% ↑	40.2%	31.3%	8.9% ↑
先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれると答えた児童生徒の割合	67.0%	59.5%	7.5% ↑	42.8%	37.3%	5.5% ↑
家の人と学校での出来事について話をする児童生徒の割合	57.5%	50.1%	7.4% ↑	50.1%	46.4%	3.7% ↑
人の役に立つ人間になりたいと答える児童生徒の割合	78.8%	74.7%	4.1% ↑	77.8%	71.1%	6.7% ↑
自分にはよいところがあると答えた児童生徒の割合	42.7%	38.8%	3.9% ↑	34.5%	29.0%	5.5% ↑

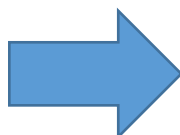
6 今年度中学校3年生の指標値の推移

平成28年度 小学6年の結果

	静岡県	全国
国A・B	103	107
算A・B	101.5	103

令和元年度 中学3年の結果

	静岡県	全国
国語	102	105
数学	104	108



*国・算ABの平均値

○全国・県を上回る学力を維持すると共に、数学においてはぐんと力を伸ばしています。

7 正答率が高い子に見られる傾向（クロス集計より）

＜小学校・中学校共通項目＞

- ・家の人と学校での出来事について話をする。
- ・自分にはよいところがある。
- ・学校に行くのは楽しいと思う。
- ・学校の規則を守っている。
- ・家で自分で計画を立てて勉強をしている。
- ・読書が好き。
- ・新聞を読んでいる。
- ・話し合う活動を通じて、考えを深めたり広げたりすることができている。
- ・授業で学んだことを、他の学習に生かしている。
- ・総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいると思う。
- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいる。
- ・自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表している。
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。
- ・国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている。
- ・国語の授業で自分の考えを話したり書いたりする時、うまく伝わるように根拠を示したりするなど、話や文章の組立を工夫している。
- ・国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落同士の関係を考えたりしながら読んでいる。

○これらの項目に肯定的に答えた子どもたちが、国語や算数・数学の平均正答率が高い傾向にありました。こういう子どもを育てていきたいです。

8 調査結果より

○小学校で確実に基礎基本の力を身につけ、それを生かして中学校でさらに力を伸ばしている。

「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」と答える児童生徒の割合が小学校中学校共に全国よりも高く、対話的な活動を通して考えを深められています。『かけがわ学力向上ものがたり』に基づき、授業改善に力を入れ取り組んできた成果であると言えます。

○学校、家庭、地域が一体となって、子どもを育てている。

「家庭で学校のことを話す」「先生がよいところを認めてくれる・分かるまで教えてくれる」「地域の行事に参加する」と答える児童生徒の割合がとても高いです。『お茶の間宣言』や『中学校区学園化構想』をはじめとする『市民総ぐるみの人づくり』が進められていることが結果として現れていると考えられます。こうした取組が、「自分にはよいところがある」という自己肯定感を育むと共に、「人の役に立つ人間になりたい」という未来を開く子どもを育てることにつながっています。掛川ならではの取組による成果だと考えられます。